

# 薬剤師が児童発達支援事業

## 多様な進路、薬学生意識を

薬学生は視野を広げて自身のキャリアをしっかり考えてほしい——。そんな思いから、京都薬科大学薬品分析学分野の武上茂彦教授は22日、研究室のイベントの一環として外部講師を招き、学内で薬学生向けの講演会を開いた。発達障害の未就学児や保護者の支援に取り組み「NPO法人発達ほしめの二歩」理事長で薬剤師の染川武之氏が壇上に立ち、武田薬品のMRなどを経て40代後半で起業した経緯を説明。「学生のうちに起業しても良い。失敗しても学びはある」とエールを送った。

### 京都薬大で講演会

染川氏は、1996年に京都薬大卒業後、武田薬品にMRとして入社。医療政策・アクセス統括部を経て、2020年に精神・小児精神科領域北東北エリアチーフに就いた。

注意欠如・多動症(ADHD)治療薬の情報提供活動を統括する立場で、医師ら関係者に発達障害の治療やケアの現状を聞くうちに、未就学児に対する早期療育の重要性を知る。「薬ではなくても、子供の未来

を変えられる方法がある」を提案し、2月にNPO法人を立ち上げた。現在は、茨城県内で児童発達支援事業所2施設を運営。20人のスタッフと一緒に、発達障害の傾向のある未就学児に質の高い個別療育、グループ療育を提供している。

療育では子供を褒め、自己肯定感を高める。染川氏は、「発達障害は病気ではない。その子の特性だが、発達障害が引き起こりや不要な活動を断ち切らなければいけない」と呼びかけた。

大学を卒業し、薬局やドラッグストア、病院で働く薬剤師は多いが、進路はほかにもたくさんある。染川氏の場合、製薬企業の一員として働く中で社会課題を見つめ、自ら起業して解決に取り組む道を選んだ。薬学の卒業生が多様なキャリアを描くことで、薬剤師の仕事の幅は広がる。社会の認識もきっと変化するだろう。



染川氏

起業して約

2年。早期療育を行う児童発達支援事業が伸び、売上は右肩上がりが増えていく。中核事業で得た収益をもとに、発達障害の子を持つ保護者の肩の荷を降ろす支援事業、親子に遊び場を提供する事業、無料のオンライン勉強会などを展開する。これらの事業は採算事業だが、社会的意義が高いと考えて実行に移した。「自治体から、相談支援事業や保育所等訪問支援事業にも取り組んでほしいと依頼されている」と染川氏。「赤字になる事業だが、準備が整い次第手がけた」と決意を語った。今回の講演は、京都薬大で同級生だった武上氏の要請で実現した。武上氏は卒業生が社会の様々な分野で活躍している。実際にどんな活動をしているのかを薬学生に知ってもらい、視野を広げてほしい」と狙いを語る。薬品分析学研究室の4、6年生や1年生ら30人以上が講演に聴き入った。薬系